

地方(まち・むら)の暮らしから考える

～人口減少社会における地域福祉の今とこれから～

大会趣旨

我が国では、少子高齢化はもちろんのこと、人口減少が急速に進行しています。このことは、地域のインフラやコミュニティの衰退、自治体サービスの限界や地域を支える担い手の不足など、地方(まち・むら)の暮らしに大きな影響をもたらします。

こうしたなか、これまで私たちが進めてきた地域福祉の基盤である地域そのもの、多くの課題に直面しています。人口減少社会を前提としながら、これからの地域福祉をどのように再設計するのが問われています。

一方、地域福祉の実践現場に目を向けると、これまでの課題解決型の取り組みだけでなく、興味・関心から広がる地域づくりや、分野・領域を超えた共創の取り組みなど、発想を転換した実践が豊かに広がっています。

今大会では、地方(まち・むら)の抱える課題を改めて理解した上で、地域の強みや可能性を活かしながら、人口減少社会における持続可能な地域福祉のこれからのあり方を、ともに考え展望する機会とします。

令和8年
日時 **12月19日(土)**
10:00～17:15
(9:30 受付開始)

会場 **奈良県社会福祉総合センター**
会場参加のみ
奈良県橿原市大久保町320-11
(近鉄「欽傍御陵前」駅 東へ徒歩3分)

対象 日本(近畿)地域福祉学会会員、
社会福祉協議会役員、社会福祉・地域福祉関係者、民生委員・児童委員、
社会福祉施設役員、NPO、企業、議員、
行政職員、学生、その他関心のある方
※学会員の方でなくてもご参加いただけます
(参加定員：150名)

プログラム

午前 10:00～12:00

自由研究発表・実践活動報告

研究・実践の成果を共有し、学びを深める時間です。



午後 13:30～17:15

基調講演

「縮充社会の到来と
地方(まち・むら)に求められる
持続可能な地域運営」

講師 作野 広和 氏
島根大学 教育学部 教授

パネル ディスカッション

「奈良県の地方(まち・むら)の挑戦
—領域を超えた多様な実践から考える—」

パネラー 若野 達也 氏 (若年認知症サポートセンター きずなや 代表)
石田 慶子 氏 (まほうのだがしやチロル堂 共同代表)
中谷 淳 氏 (山添村社会福祉協議会 事務局次長)
奥田 高士 氏 (市民生活協同組合ならコープ 組織広報部部長)

コーディネーター 柴田 学 氏 (関西学院大学 准教授)
コメンテーター 作野 広和 氏

参加費

- 学会員(個人・団体)、学生 1,000円
- 一般の方 1,500円
- 交流会参加費 5,000円(予定)

参加申込

下記Webフォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/sTmZkQxv1D2VZx37>
※同じ所属から複数名参加の場合でも、個人ごとにお申し込みください。



申込締切 令和8年11月20日(金) 必着

交流会

18:00(予定)
会場にて交流会を開催します。
(参加費：5,000円(予定))